



2017. 4. 14

この“らららん”は園長が中心になって作る「園だより」です。子どもたちの教育のこと、園の基本的な考えなど、わかりやすくお知らせしたいと思っています。また、園での活動や園長の関心があることなど多岐にわたって作成していきます。皆さんに愛される園だよりを作っていきます。楽しみに待っていただければと思います。

入園・進級おめでとう



平成29年度がスタートしました。新しい顔ぶれが幼稚園に新鮮な空気を運んでくれています。乳児部は4/3(月)に入園式がありました。真新しい園舎での入園式は、子どもたちだけでなくご家族の皆さんもたくさん来られ、和やかな雰囲気の中で入園式が行われました。突然、たくさんの人たちの中で式を行ったのですから、小さい子どもたちの緊張感も予想以上だったと思います。きっと大変だったことでしょう。しかし、これから少しずつ慣れてくれればよいなと思っています。子どもたちが安心して過ごせるように、配慮していきたいと思っています。

幼児部は4/11(火)が始業式、4/12(水)には入園式と本格的にスタートをしました。始業式は、子どもたちの顔が輝いていました。進級の喜びもあったと思います。新しい担任の先生もわかり、ホッとしたような表情を見せていました。

入園式は、主に年少組の新入園の皆さんを迎える式になりました。初々しい年少組の皆さんが入園式に出席しました。入園する皆さんは、式ではよく落ち着いてお話を聞いてくれました。お話をしながらみんなの様子を見て、とても嬉しくなりました。今回の入園式は、天候と相まって素晴らしい船出となりました。これから幼稚園での日々をみんななかよく元気にやりぬいてほしいと思いました。



また、入園式のために、新しく年長組になった子どもたちも参加しました。園児代表挨拶では、二人の年長さんがみんなの前で立派にお話をすることができました。そして、全員が園歌や愛唱歌「おおきなおみみ」を元気よく歌ってくれました。

新入園の皆さんは最初、なかなか慣れずに困ることがあるかもしれません。しかし、次第に友だちや先生とかかわりができ、自分の居場所を見つけることができるようになります。必ず変わってきますので、どうぞゆとりをもって見守ってください。困ったことがあれば、遠慮なく幼稚園へ聞いてみてください。

【お知らせ】

①駐車場について

28年度末まで乳児施設建設のため、駐車場は野田学園の一部を借りていました。29年度から“のだようちえん0・1・2”がスタートし、幼稚園の駐車場が使えるようになりました。しかし、駐めることができる台数には限りがあり、十分に車を駐めることができず、列を作って待つ状況も予想できます。大変ご迷惑をお掛けすることをお許してください。焦って事故など起こさないように十分に、気を付けてください。

少し離れていますが、八坂神社の駐車場なども使えますので、車が列を作っている場合は他の駐車場のほうが時間が掛からない場合もあります。また、お宅から園までがあまり遠くでない方は、自転車だと送迎は簡単にできますのでお勧めします。

②掲示コーナーについて

職員室前の壁面に掲示コーナーがあります。ここには、いろいろな宣伝のプリントや冊子が置いてあります。維新公園や常磐公園で行われるイベント紹介や子育て応援情報誌、救急医療の電話相談など多岐にわたっています。

プリント類はいつも人数分いただけるわけではありませんし、園児全員に配布しなければいけないものでもありません。保護者の皆さんにご自由に選択していただき、お持ち帰りしていただけたらと思います。なかなかおもしろいプリントもありますよ。

アクティブ・ラーニングとは？

新しい幼稚園教育要領や保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、小学校以降の学習指導要領のキーワードになっているのが「アクティブ・ラーニング」です。一般的な意味としては「子どもたちが能動的に参加しながら学ぶ機会を設けた形の教授方法や、学習方法」のことを指します。小学校以降の授業で先生が一方向で講義風に話し続ける授業形態とは異なります。アクティブ・ラーニングの例として挙げられる方法としては、発見学習、問題解決型学習、体験学習などがあります。ディベート、グループ・ワークなどもその方法の一つです。

学校の授業は、教師主導になりがちな面がありますが、乳幼児期の教育は子ども中心で、子どもの主体性を大切にしたい遊びや生活を通じた体験的な活動です。なので、乳幼児期の教育は、「アクティブ・ラーニング」であるとも言えるのです。

乳幼児がモノの名前を、使いこなすことのできる言葉として身につけるには、その実物を見てふれて親しみながら、また実際に使いながら学ぶことが不可欠です。テレビ漬けの子どもの語彙力が少ないことが明らかになっています。乳幼児にとっては、実物にふれることなく、耳で聞いただけや、単語カードを見て暗記することは望ましい経験ではないのです。

気持ちを表す「うれしい」「楽しい」といった言葉も、その気持ちを抱くような経験があって習得できるのです。乳幼児期の学びでは、これはおもしろそうだ、どうしてなんだろう、あんなこともしてみたい、といった好奇心、探究心、あこがれなどがアクティブであることが大切です。

乳幼児期の学びにおいて「主体性を尊重すること」「環境を通じた教育であること」「遊びや生活中心であること」が大切であるとされる理由は、発達的な特徴として「心」「感覚」「体」がアクティブである必要があるからです。

特にこの時期は、指示や命令、与えられた経験により受け身で学ぶのではなく、子どもの主体性を尊重した学びが大切であることをご理解いただきたいと思います。

「ぜんそく」市民公開講座に参加して

園長 有馬 重人

4/8(土)山口県健康づくりセンターで、気管支ぜんそくについての公開講座がありました。山口赤十字病院の國近先生や西郷先生、たはらクリニックの田原先生と、日頃お世話になっている先生方がお話をされるので出掛けてみました。本当は、私自身が気管支ぜんそくをよく理解していないことも参加への動機でした。



気管支ぜんそくが、インフルエンザのように感染し症状が終われば、それで終わりというわけではないことを知っています。実際はどうなのか？それを知りたくて足を運びました。

完全に理解できたわけではありませんが、自分なりに概要は理解できました。お話をされる講師の先生方が、参加者へ理解しやすいようによく工夫して発表されていることも嬉しかったです。そのときのお話やいただいた資料から、概要をまとめてみました。

1 「ぜんそく」の症状

ぜんそくの主な症状は、咳や痰、息苦しさ、呼吸時のゼーゼー・ヒューヒューなどがあります。夜間や早朝に起こりやすいとされています。季節の変わり目や気温差が激しいとき、疲れているとき、風邪を引いたとき、アレルゲンや刺激物質を吸い込んだときに起こりやすいとされています。

2 「ぜんそく」はなぜ起こる？

肺への空気の通り道である気道は、本来なめらかです。しかし、ぜんそくの患者さんは、気道が炎症を起こして、狭くなっているのです。炎症が起きているときは、刺激に敏感で、気道が狭くなり、咳をしたり息苦しくなったりします。

3 ぜんそくのきっかけは？

子どものぜんそくは、約9割が「アトピー型」といわれます。アトピー型はアレルゲン(ダニやハウスダスト、花粉やペットの毛、特定の食べ物やカビなど)に対してアレルギー反応が起こりやすい体質をいいます。非アトピー型では風邪のウィルスやタバコの煙、冷たい空気などがあるそうです。予防は、これらの刺激をなるべく避けることが大切ということでした。

4 発作止めの薬で、ぜんそくの治療はできた？

ぜんそくの患者さんには、発作が最もつらい症状です。発作を抑えれば、ぜんそくが完治したと勘違いをしてしまいがちです。ぜんそくの原因は気道の炎症であるため、炎症を治療することが大切です。

5 症状がなくなったら、治療を止めていい？

症状がなくなると、毎日の治療を忘れてたり、自己判断で止めてしまうことがあります。しかし、症状がなくなっても、気道には炎症が残っている可能性



吸入ステロイド薬の販売増で、喘息で亡くなる人が減りました。

があるため、再び発作を起こすこともあるそうです。健康な人と変わらない生活を送るために、毎日の治療を継続することが大切だそうです。

講師の先生が「いつ再発するかは誰にもわからない。だからなかなか治ったとは言えない。薬の量を減らすなど慎重な判断が必要になる」と話されました。印象に残っているのは、カメラで炎症を起こしている気道の画像を示されました。真っ赤になっていました。「炎症はやけどだ」と話されました。大変なことがよくわかりました。継続的な治療の大切さもよくわかりました。